

## 国際サゴヤシシンポジウムのエクスカージョンで 地熱発電所見学を見学して

藁科 伸哉

茨城大学大学院農学研究科 〒330-0393 茨城県阿見町中央3-21-1

2007年7月21日、フィリピン国で開催された第9回国際サゴヤシシンポジウムの3日目のエクスカージョンで、トンゴナン (Tongonan) にある地熱発電所を見学させていただきました。以前から、フィリピン国は火山国であり地熱発電が盛んであることをマスメディアを通して知ってはいましたが、実際に現場を見てみると蒸気の強さに圧倒され衝撃を受けました。緑色の山々から立ち上るたくさんの蒸気の柱は、何か神々しいものさえ感じられました。フィリピン国は世界有数の地熱発電を推進している国であり、国内供給電気エネルギーの多くを、地熱や水力などの再生可能なエネルギーでまかっています。なかでも、地熱発電によるものは9,822GWhと世界有数の発電量を誇っています。我が国もフィリピン国と同様に火山国であり、東北地方や九州地方などで地熱発電所が稼働していますが、水力発電と合わせても国内供給電気エネルギーは10%程度にとどまっており、そのうち地熱発電によるものは0.4%に過ぎません。このようなことから、いかにフィリピン国が再生可能なエネルギーを利用することに先進的であるかが理解できます。

現在、地球環境は、化石燃料の利用過多に伴うCO<sup>2</sup>排出量過剰による温暖化や、極地での氷の溶解による低地の浸水、水や空気汚染の悪化など人為的な影響により危機的状況に直面しています。そのため、いかに地球環境に負荷を与えず、さらには改善しつつ現在の生活レベルを維持・向上させていくかが当面の目標となるということはいうまでもありません。目標達成のために化石燃料の利用を抑えるためにさまざまな穀物からバイオエタノールを作り出すことが新たな試みとして始められています。

私たちの専門としているサゴヤシは、新しい燃料になりうるバイオエタノールの原料としての利用の可能性を秘めつつ、さらには高いデンブ生産性を活かした食糧問題の解決にもつながる能力を有しています。今後の地球環境を考えたくて、いま、自分の研究に自信を持って邁進していきたいと思います。



### 引用文献

- 東北経済産業局 資源エネルギー環境部 資源エネルギー環境課. ようこそ東北の地熱発電所へ.  
<http://www.tohoku.meti.go.jp/geo/>
- NEDO海外レポート NO. 988, 2006.11.1 フィリピンにおける再生可能エネルギー、温暖化対策への取組状況  
<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/988/>